



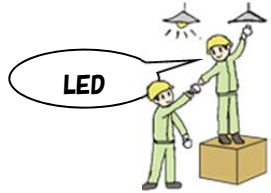





## 達成に向けた施策について

## 1. 目標達成に向けた削減対策

目標達成に向けては、現行の環境基本計画に掲げている対策を着実に実行していく必要がある。さらに、今後普及が見込まれる知見や技術を導入することで、より効果的な形での展開を図っていく。

## (1) 削減対策の例

	対策名	実施例・想定削減量
家庭部門	区民の省エネ行動実施 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「エアコンの使用時間を1日1時間削減」を約58%の区民が実施…24.5TJ/年削減</li> <li>周囲温度22℃で、冷蔵庫の設定温度を「強」から「中」にする取組を約22%の区民が実施…9.7TJ/年削減</li> </ul>
	省エネ家電への買替え 	<ul style="list-style-type: none"> <li>購入15年以上経過したエアコンの買替 1台 522MJ/年削減</li> <li>購入15年以上経過した冷蔵庫の買替 1台 1,656MJ/年削減</li> <li>照明の買替(白熱球⇒蛍光灯) 1戸 907MJ/年削減</li> </ul>
	太陽光発電設備導入 	<ul style="list-style-type: none"> <li>3kWの太陽光発電設備導入により、約11GJ/年削減</li> </ul>
	老朽化建築物の建替え 	<ul style="list-style-type: none"> <li>住宅外皮性能の向上</li> <li>S55年基準以前→H11年基準への建替え…1戸・約6GJ/年削減</li> <li>S55年基準→H11年基準への建替え…1戸・約2.2GJ/年削減</li> <li>HEMS(消費量推計・最適制御)導入…1世帯・1.3GJ/年削減</li> </ul>
業務部門	省エネ設備の導入 	<ul style="list-style-type: none"> <li>照明…従来型蛍光灯10台をHf型照明器具に交換で、2.3GJ/年の削減</li> <li>照明…白熱灯ダウンライト10台をLED型照明器具に交換で8.2GJ/年の削減</li> <li>空調…エアコン1台(10馬力, COP2.7)をCOP4.0の高効率パッケージに交換で16.7GJ/年削減</li> <li>給湯…従来のガス給湯器を高効率給湯機に交換で3.5GJ/年削減</li> <li>エレベータ(13人乗り、3台)の省エネ制御等で5.4GJ/年削減</li> </ul>
	老朽化建築物の建替え 	<ul style="list-style-type: none"> <li>建物外皮性能の向上(延べ床面積5,000㎡のビルの場合)</li> <li>S55年基準以前→H11年基準への建替えで、約1,269GJ/年削減</li> <li>S55年基準→H11年基準への建替えで、約446GJ/年削減</li> </ul>
	太陽光発電設備導入 	<ul style="list-style-type: none"> <li>10kWの太陽光発電設備導入により、約35GJ/年削減</li> </ul>
	建替え時の共同熱源化 	<ul style="list-style-type: none"> <li>35kW*のコジェネレーション設備導入により、約1,100GJ/年削減</li> <li>*一般にホテルや総合病院等に導入されている規模</li> </ul>

※1MJの1,000倍が1GJ、1GJの1,000倍が1TJ(1TJ=1,000GJ=1,000,000MJ)

※「区民の省エネ行動の実施」「省エネ家電への買換え」は、区民アンケート結果より算出

## (2) 今後の施策展開に向けた新たな視点

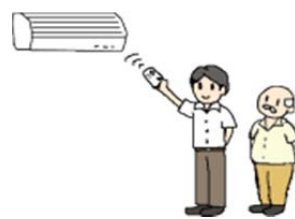
### ①「賢い」節電・省エネ行動の広がり

昨年度実施した区民アンケートでは、震災以降、エネルギーの使い過ぎに気を付けるようになった人のうち8割が、今後も省エネを続けると回答した。区内の電力消費量の推移をみても、一定の節電・省エネ行動が定着しつつあることがうかがえる。

こうした「賢い」節電・省エネ行動を、さらに広げていくことが必要である。

### 区民が自宅で取り組んだ節電対策

- 1位 照明をこまめに消す
- 2位 エアコンの使用時間を減らす
- 3位 エアコンの設定温度を緩和する
- 4位 使用しない家電のコンセントを抜く
- 5位 まとめて洗濯する



(「豊島区環境基本計画」中間見直しに伴うアンケート調査より)

### 『賢い節電』の基本原則 (3原則)

- 1 無駄を排除し、無理なく「長続きできる省エネ対策」を推進
- 2 ピークを見定め、必要なときにしっかり節電 (ピークカット)
- 3 経済活動や都市のにぎわい・快適性を損なう取組は、原則的に実施しない

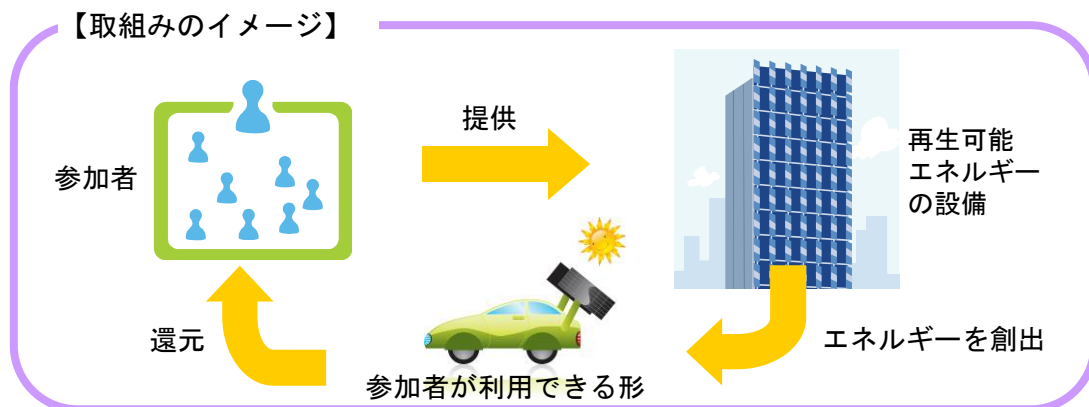
事業者向け『賢い節電』7か条	家庭向け『賢い節電』7か条
1 500 ルクス以下を徹底し、無駄を排除、照明照度の見直しを定着化	1 夏は冷蔵庫の庫内温度設定「中」を徹底
2 「実際の室温で28℃」を目安に、それを上回らないよう上手に節電	2 テレビの省エネモード設定を徹底
3 OA機器の省エネモード設定を徹底	3 白熱電球は、LEDや電球形蛍光灯へ交換
4 電力の「見える化」で、効果を共有しながら、みんなで実践	4 「実際の室温で28℃」を目安に、それを上回らないよう、エアコンや扇風機などを上手に使う。
5 執務室等の環境に影響を与えず、機器の効率アップで省エネを	5 猛暑日にはエアコン使用の過度な抑制は行わない。
6 エレベータの停止など効果が小さく負担が大きい取組は、原則的に実施しない。	6 家電製品等のこまめな省エネを実践
7 電力需給ひっ迫が予告された時に追加実施する取組を事前に計画化	7 消費電力の大きい家電製品は、平日14時前後での使用を控える。電力需給ひっ迫が予告された時には、特に使用を控える。

(出典：東京都省エネ・エネルギーマネジメント推進方針)

## ② 地域が主役となる再生可能エネルギーの導入

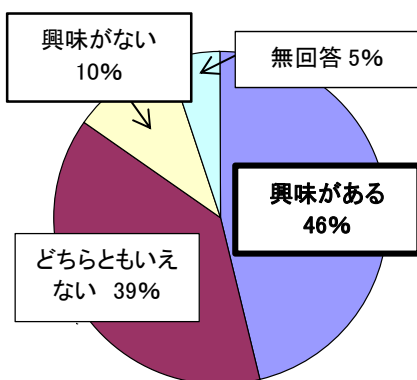
太陽光発電などの再生可能エネルギーは、低炭素かつ非常時にも自立可能なエネルギー源として、急速に拡大しつつある。これまでのような個々の建物の所有者による導入だけでなく、地域における市民参加型の導入手法も注目されている。

区民アンケートでも、回答者の46%がこうした取組みに「興味がある」としており、豊島区での実現可能性を検討していく必要がある。

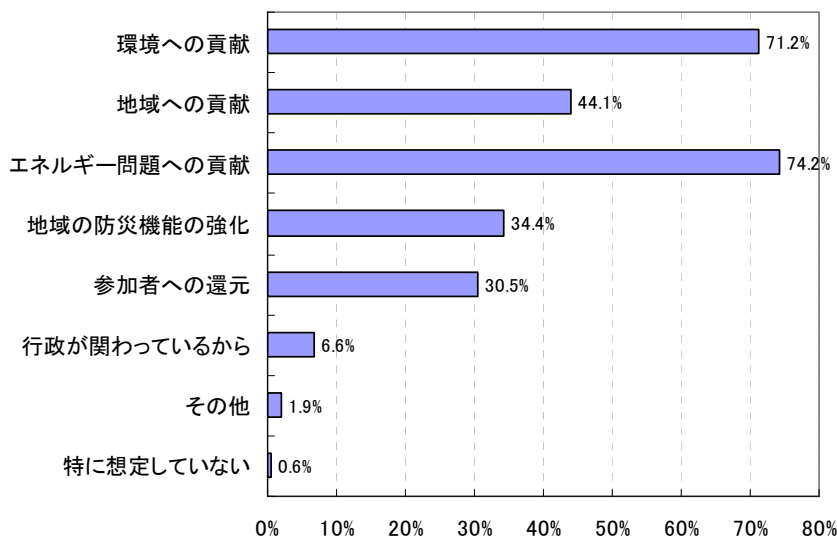


取組事例	参加者が提供すること（例）	参加者に還元されること（例）
1) 市民共同発電所	参加者が出資して再生可能エネルギー設備を設置する。	創出したエネルギーを共同利用できる（電気自動車、非常時の電力等）。
2) 太陽光発電の屋根貸し	参加者が使っていない場所を提供して再生可能エネルギー設備を設置する。	提供した場所の賃料を得ることができる。
3) 住宅用太陽光発電を低価格で設置	参加者は「太陽光発電を大量購入した事業主体」に設置費用を払う。	太陽光発電を低価格で設置することができるため、区内に太陽光発電が普及する。
4) ポイントプログラム	区内で再生可能エネルギーに貢献する商品・サービスを購入するとポイントがもらえる。	貯めたポイントをさまざまな商品と交換できる。

地域での取組に対する  
興味の有無



「興味がある」とした理由



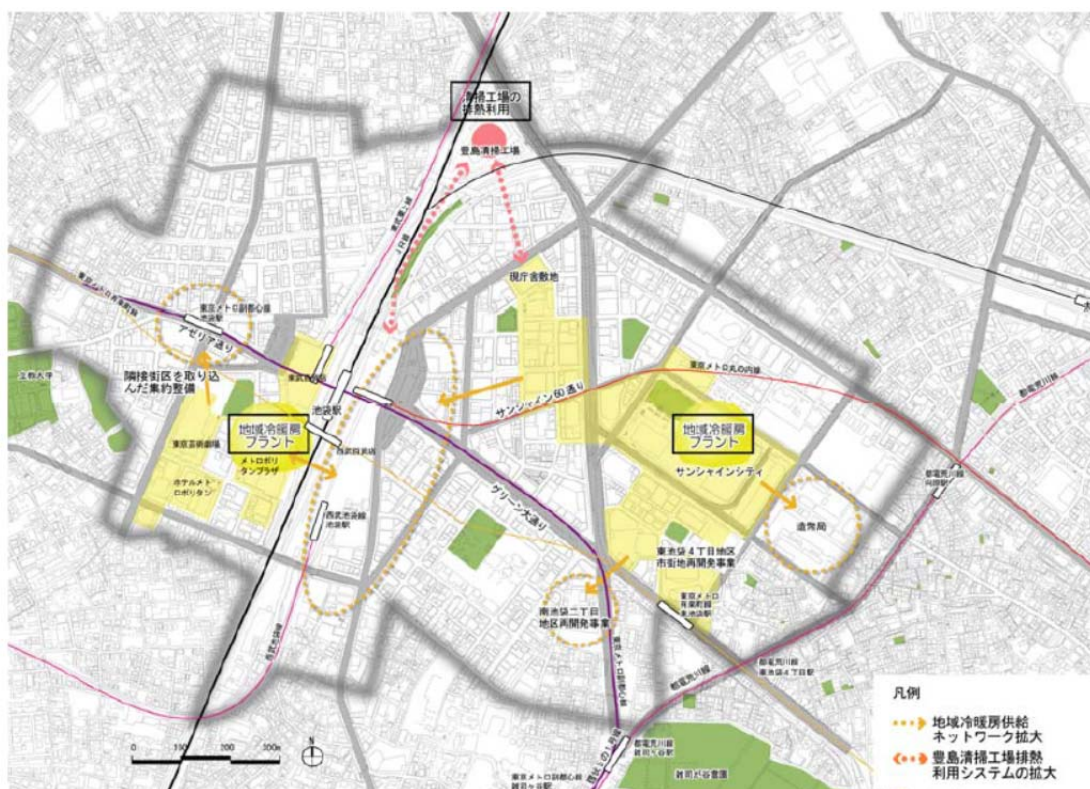
（「豊島区環境基本計画」中間見直しに伴うアンケート調査より）

### ③ スマートコミュニティの形成

豊島区では、以前より、地域のエネルギー資源である地域冷暖房供給エリアの拡大や、豊島清掃工場排熱利用によるエネルギーのネットワーク形成のため、調査・研究を進めている。

こうした方向性に加え、災害時の防災力の向上や、地区全体でのエネルギー利用の最適化・多元化による、安全・安心かつ快適な低炭素型のまちづくりをめざすことが重要となる。

池袋副都心地区 エネルギーのネットワーク



(出典：池袋副都心整備ガイドプラン)

### (3) 対策・施策の実施イメージ

これらの対策・施策の中には、すぐに取り組めるものもあれば、効果が現れるまでに時間を要するものもある。中長期的な目標の実現に向け、計画的に推進する必要がある。

